

平成25年(2013年)9月発行

いんぷおめーしょん information

(「くにたちのとしょかん」通号119号)

くにたち中央図書館

〒186-0003 国立市富士見台 2-34

☎042-576-0161

くにたち北市民プラザ図書館

〒186-0001 国立市北 3-1-1 9号棟

☎042-580-7220

<https://www.library-kunitachi.jp>

夏休みが終わり新学期を迎えたとたん、埼玉県内・千葉県内に竜巻による大きな被害ができました。犠牲者のなかったことが不幸中の幸いでした。それにしても、異常な高温と激しい雷雨に翻弄された夏休みでもありました。今まで見たこともない「太い稲妻」、大気を震わす「雷鳴」に身をすくめる思いをされた方も多かったことでしょう。

新版気象ハンドブック(朝倉書店 1995年刊：北市民プラザ図書館所蔵、中央館は2005年刊の第3版を所蔵) 大気の運動と物質循環「日本の竜巻」の項には、1971年から1990年に発生した竜巻について調査した結果が示されています。これによると9月の発生が最も多く、8月から10月の3ヶ月間で全体の47%を占めるといことです。「全国どこでも発生するが、発生数の地域差は顕著あり、沿岸部特に太平洋沿岸部で多く、関東平野・筑紫平野などにおいても多い。県別の発生確率では沖縄県が最も大きく・・・」とあります。**ウィキペディア「竜巻災害の一覧」**中の、日本の主な竜巻の状況をみると、大きな被害をもたらす竜巻発生件数は近年あきらかに増加しているようです。

さて、竜巻の強度を示す指標に「藤田スケール(英語ではFujita scaleまたはFujita-Pearson scale)」があります。9月2日に発生した竜巻は「F2」とされました。この指標は1971年にアメリカの暴風雨予測センター(Storm Prediction Center;SPC)の前身である国立暴風雨予報センター(National Severe Storms Forecast Center;NSSFC)の局長アレン・ピアソンとシカゴ大学名誉教授藤田哲也が1971年に提唱したものです(前掲のウィキによる)。その後、計測機器等の進歩をうけ、藤田氏はこの指標に改良を加えましたが存命中はその指標は使用されなかったといことです。藤田氏の死後、改良された指標を支持する研究者が増え、現在は改良藤田スケールが竜巻の破壊力などを図る指標として使われています。

五感を駆使して危険を回避

この夏、日本の各地で1時間や1日など短時間降水量が観測史上「初」という記録更新が相次ぎました。気象庁は「今までに経験したことがないような・・・」という表現を使い「ただちに命を守る行動を」取るように勧告しました。**いのちを守る気象情報(斉田季実治/著 NHK出版 2013.5刊)**「はじめに」で、著者は『情報だけでは命を守ることはできません。数分のニュースや気象情報の中に詰まっている命を守るための情報を生かすには、見る側にもある程度の知識が必要』としています。急激な天気の変化といっても一瞬で起こるものではなく、必ず兆しや気配があります。空が暗くなる、急に冷たい風がふいてくる、雷の音がする、雲が渦を巻くよう

に動いている等々、身体が感じる状況から次に起こるであろうことを推測する「力」が必要だということのようです。巻末には、『すぐに役立つウェブサイト』として、気象情報提供サイトが複数紹介されています。

このほかにも、気象・災害への注意を喚起するものとして**天気と気象 異常気象のすべてがわかる**(佐藤公俊ほか監修 学研 2013.8 刊)、**自然災害からいのちを守る科学**(川手新一ほか著 岩波ジュニア新書 744 岩波書店 2013.5 刊) などがありますのでご利用ください。



今月のレファレンス

質問	回答
「六書」について載っている本は？ 「六書」＝りくしょ。漢字の造語および運用の原理を6種類分類したもの。(象形、指事、形声、会意、転注、仮借)	「リクショ」と検索したが、ヒットせず、『字通』をご覧いただく 『WebcatPlus Minus-β』のフリーワード検索で「六書」を検索 →書名と表紙画像が見られ、書名をクリックすると目次が表示される ・821/2『漢字のおさらい』(自由国民社 2012) ・820/1『中国古典を読むために 中国語学史講義』(大修館書店 1996) ・S『白川静 漢字の世界観』(平凡社 2008)を貸出
馬のイラストか写真がみたい (特に脚や筋肉の動きがわかるもの) 絵を描くのに使いたい	・403/8『知のビジュアル百科 49馬の百科』(あすなる書房 2008) ・724/58『コマ送り動くポーズ集』(マール社 2003) ・489/8『野生馬を追う』(東京大学出版会 2007) ・児童48『北の馬と南の馬』(あかね書房 2011)を紹介

調べごとなどはお気軽に図書館職員におたずねください。

図書館行事のお知らせ

洋の東西を問わず、文字や書物が一部の特権階級のものであった時、「物語」は語られるものであり聴くものでした。識字率が高くなり、さまざまなメディアから情報を得られる現代では、子どもも大人も人の口から語られる「物語」を直に聞く機会はほとんどないといってもよいでしょう。図書館では昭和49年の開館以来、子ども向けに毎週「お話の時間」を開催してきました。その「お話」を、しばらく前から大人の方にも楽しんでいただきたいと「大人のためのお話会」として実施しています。毎年、秋口から月1回のペースで、分室・分館を会場に市内を回ります。今年も第1回が9月8日(全8回)に開催されました。大人だからこそ理解できる・楽しめるものを厳選しています。この機会に「ものがたり」に触れてみてはいかがでしょうか。

- | | | |
|-----|------------|---------------------------|
| 第2回 | 10月 9日(水) | 青柳分室(青柳福祉センター内 午後2時から) |
| 第3回 | 11月 17日(日) | 南市民プラザ分室(南市民プラザ内 午前11時から) |
| 第4回 | 12月 1日(日) | 東分室(東福祉館内 午前11時から) |
| 第5回 | 1月 24日(金) | 谷保東分室(谷保東集会所内 午後2時から) |
| 第6回 | 2月 22日(土) | 北市民プラザ図書館(北市民プラザ内 午後2時から) |
| 第7回 | 3月 3日(月) | 下谷保分室(下谷保防災センター内 午後2時から) |
| 第8回 | 3月 16日(日) | 国立公民館(午前11時から) |

いずれも開場は開演の30分前です。

